公立鳥取環境大学報 Tottori University of Environmental Studies Public Relations Magazine

環境大レポート

KANKYODAI REPORT

第32号
Feb. 2019

特集「砂丘ごぼうproject - 鳥取の新たな魅力を創造 -」に参加してくれた皆さん

特集 2 3

砂丘ごぼうproject
－鳥取の新たな魅力を創造－

ESSAY 4
三朝温泉と放射線　環境学部 環境学科　足利 裕人 教授

受賞関係
環大コンペ結果

研究紹介 5
リサイクルは、まるで宝探し「廃棄物」の持つ可能性をめぐる学び
環境学部　門木 秀幸 講師
人と協働をすること、そして学ぶ楽しさを知ることで人生は豊かなものになります
経営学部　島田 善道 講師

キャンパストピックス 6 7
光山ゼミinドイツ／兪ゼミin中国（福建省）

国際交流 8
海外大学との学生交流プログラム

クラブ&サークル活動・学友会活動報告 9
卓球部・科学部／
第54回鳥取しゃんしゃん祭りに参加して・環謝祭レポート

プロジェクト研究 10
鳥取でジビエる！～シカ肉について本気出して考えてみた～

キャンパスニュース 11
2018年9月～12月

決算報告 12
2017年度 公立大学法人 公立鳥取環境大学 決算概要

お知らせ
SDGsへの取組／2018年度学部・大学院学位授与式

特集 砂丘ごぼうproject

－鳥取の新たな魅力を創造－

経営学部3年生4名が、起業部の活動の一環で、鳥取廣信青果と共同で鳥取県産ごぼうを活用したクラッカー「砂丘の流れ星」を開発しました。これは星取県と名乗る鳥取とのコラボ商品でもあります。鳥取の新たな魅力を広めるため、2年前から取り組んでいるこのプロジェクトについて特集します。

このプロジェクトを始めたきっかけ

先輩が主催したイベントで「砂丘ごぼう茶」の魅力に触れました。「渋い」「地味」といったイメージがあるごぼう。ごぼう茶は高齢者の方しか飲まないと思っていましたが、飲んでみてびっくり！あっさりしていて飲みやすいのです。
ごぼう茶に合うごぼうのお菓子を作り、若い人たちにも砂丘ごぼうに親しんでほしい、鳥取には、砂丘・梨以外にも隠れた特産物や魅力がたくさんあり、それを広めたい！という思いから、4人の活動が始まりました。

start!

2016.7.9

2016年7月9日 「ごぼう茶ってナニ？」を開催

ごぼう農家を訪問し、得た情報をクイズ形式で出題するイベントを実施。正解者には景品としてごぼう茶をプレゼント。ごぼうクッキーや寒天を来場者に試食してもらい、意見を聞くことができただけではなく、幅広い年代の方に砂丘ごぼうについて知ってもらうことができました。

2016 夏

2016年 夏ごろ 商品開発打ち合わせ

鳥取廣信青果（砂丘ごぼう茶販売店）、まちパル鳥取（鳥取市国際観光物産センター）の方と商品開発について打ち合わせ。
何をメインに持ってくるのか・商品の方向性はどうするのか・ターゲットや販促方法は何が適しているのかアドバイスをいただきました。

2016.7.30　2016.9.30

2016年7月30日 「土曜夜市」でアンケート調査を実施
2016年9月30日 砂の美術館売店でテスト販売

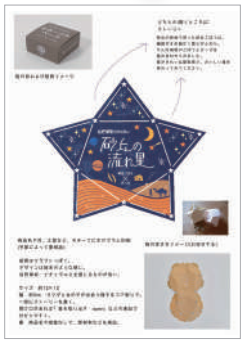
「ごぼう茶ってナニ？」のイベントで得た意見を元に改良したクッキーを、土曜夜市（鳥取駅前の商店街で、7月中旬～8月中旬の毎週土曜日に開催されるお祭り）にて来場者に試食していただき、再度アンケート調査を実施。「お金を出して買うかはわからない」という意見もあり、いかに試食と販売を繋げるかという点が課題でした。

また、砂の美術館売店でのテスト販売では、購入者の層がターゲットの若い女性ではなく、高齢の方が多いという課題点もありました。「ごぼうと甘いクッキーという組み合わせは味のイメージがわきにくいのでは…」と考え、クッキーを改良して開発したのがごぼうとチーズのクラッカー「砂丘の流れ星」です。

2018 春～夏

2018年 春～夏 パッケージ制作

星取県コラボの鳥取土産「砂丘の流れ星」を開発するにあたり、パッケージのデザインやキャッチコピー、箱の形などをメンバー内のデザイン担当である松本さんと森井さんで考案。制作会社と話し合い、形にしました。



“砂丘ごぼう”って??

What's “SAKYU GOBO”

砂地で栽培されるため、根っこがまっすぐ伸びるのが特徴

What's “SAKYU GOBO”

色が白く、歯ごたえと香りがいい!

メンバー

起業部 砂丘ごぼうプロジェクト班

山中 薫 、森井 桃子 、松本 果子 、毛利 雅良（左から）

● 2018年7月23日

写真撮影・POP制作

鳥取のプロフォトグラファーの方に「砂丘の流れ星」のイメージ撮影を依頼。モデルのポーズや構図、光の加減、雰囲気などをあらかじめ自分たちで決め、夜の砂丘で撮影を行いました。初めてで戸惑うこともありましたが、事前に商品のイメージやコンセプトを伝えていたことでスムーズに撮影を進めることができました。撮影した写真は、販売場所に置くPOPやSNSでの広告に使っています。

● 2018年9月12日

平井鳥取県知事へ表敬訪問

当日は、平井知事だけではなく記者の方々もいらっしゃいましたが、練習の甲斐あって落ち着いて商品の説明をすることができました。星取県のPR だけではなく、当初の目的であった「砂丘ごぼうという鳥取の隠れた特産物を多くの方々に知ってもらう」機会になりました。また、2年間の活動の成果も報告でき、達成感も得ました。

2018.7.23　2018 夏　2018.9.12　2018.11.3　To Be Continued…

● 2018年 夏

販売場所へ商談

「砂丘の流れ星」の完成後、鳥取廣信青果さんと道の駅など4か所で商談を行いました。商品の説明や作ろうと思ったきっかけ、売り場のレイアウトなどについて話すための資料を学生で作成し、しっかり事前準備をした結果4か所全てで取り扱っていただけることになりました。

● 2018年11月3日

「木のまつり」に出展

「地域の方にも親しまれるお土産」にしたいという思いから、地元商店街や各種団体などとの協力により開催している「木のまつり」に出展しました。親子連れや高齢の方まで、幅広い世代の多くの人に「砂丘の流れ星」に興味を持っていただくことができました。

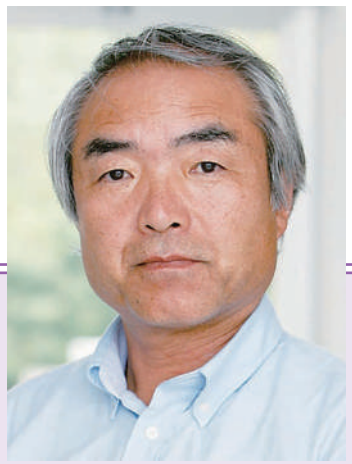
今後の予定や目標

イベントの企画や出店を引き続き行っていきたいです。また、後輩たちにもこの活動を引き継いでいき、ごぼう以外の新たな鳥取の魅力を広めていってほしいと思います。

ESSAY　受賞関係

三朝温泉と放射線

環境学部 環境学科
足利 裕人 教授



鳥取県中部には、「ラジウム温泉」で有名な三朝温泉があります。「お湯につかり、三つ目の朝を迎えるころには病が消える」ということが三朝の由来とも言われます。7月末には、ラジウムを発見したキュリー夫人の偉業を称えるキュリー祭が営まれ、花火が三朝川を彩ります。三朝から南へ直線距離で10kmのところには、ウラン鉱が採掘された人形峠があります。このあたり一帯の花こう岩はウランを多く含み、崩壊して生じたラジウムに触れた熱水には、さらに崩壊したラドンと呼ばれる気体が含まれます。三朝温泉はラドンの含有量が温泉として日本一なので、正しくは「ラドン温泉」です。

さて、三朝温泉観光協会の案内やチラシ、泉源の看板等には、少量で効果があるホルモンが語源の「ホルミシス効果」(アメリカの神学者が提唱)が謳われています。「飲んでよし、吸ってよし、浸かってよし。新陳代謝や免疫力、自然治癒力を高める」というものです。ラドンは鉛やビスマスに崩壊しますが、このときにヘリウムの原子核であるアルファ線という放射線を出します。アルファ線は質量が大きく(水素原子の4倍)、ベータ線やガンマ線に比べ、大量の細胞を傷つけます。アルファ線は紙1枚で防げるので、温泉に浸かっても皮膚が防いでくれます。しかし、熱気浴だと肺から、飲泉だと胃から入ったラドンは体内をめぐり、アルファ崩壊して内部被ばくを引き起こします。泉源には茶碗が置いてありますが、飲泉は控えるのが賢明です。

三朝温泉のポスターには、必ず河原の湯という露天風呂が描かれます。ゼミ生と行った調査で、河原の湯のごく近辺のみが、純粋にラドン温泉だということが分かりました。一般にウラン鉱にはトリウムが含まれることが多く、河原の湯の対岸の旅館大橋は、ラドンの同位体のトロン(ラドンより中性子が2個少ない)の含有量が世界一といわれる巌窟の湯があります。温泉水中でのトロンの崩壊を測定しようとしたのですが、まったく検出できません。泉源から湧出したトロンは瞬く間に周囲の岩石に吸着し、一部は空気中に出て、10秒もすれば1/1000に減少することが分かりました。

ラドンとトロン、一つの温泉でどちらも世界屈指の含有量の三朝の温泉水の教材化は、私の本学での研究のメインテーマでした。

第15回 環大コンペの結果について

環大コンペとは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、大学生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画(団体)を表彰し副賞を授与するものです。

今年度は9団体9企画の応募があり、書類審査、プレゼンテーション審査を経て、右記のとおり入賞企画が決定しました。

平成30年12月20日の授賞式では、同会の英(はなふさ)会長より、「環大コンペの応募企画を見ていると、学生のみなさんは大学の中だけでは学べないことを実践して頑張っていると感じました。このような活動を地域の方々にも幅広く知っていただきたいと思います。そして、今後のみなさんの活躍に期待します。」と激励の言葉をいただきました。

また、1位に輝いた「起業部砂丘ごぼうＰｒｏｊｅｃｔ班」が参加者を代表して「1年生の時から取り組んできた活動が授賞できて嬉しく思います。今後も活動を継続していきたいです。活動を支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。」とお礼の言葉を述べ、企画のプレゼンを披露しました。

【第1位】
砂丘ごぼうProject　団体名:起業部砂丘ごぼうＰｒｏｊｅｃｔ班

【第2位】
持続可能な社会の先端を行く「SDGs」～SDGsの普及と地域課題を考える～　団体名:チームSDGs

【第3位】
図書鱗(としょりん)～目からウロコのはちゅライブラリー～爬虫類から学ぶ！自然の大切さ、命の尊さ。
団体名: はちゅライブラリー「図書鱗」

【奨励賞】
(鳥)魅趣走ガイド2018
団体名:サイクリング部

最強タッグ！甘酒と牛乳を生活の中に
団体名:千代むすび酒造株式会社×春名このみ「はよまめに」

File1 リサイクルは、まるで宝探し「廃棄物」の持つ可能性をめぐる学び

私たちが生み出す「廃棄物」その2つの可能性について

私が研究しているのは、廃棄物と、そのリサイクルの方法についてです。私たちの生活から発生する廃棄物は、2つの側面を持っています。一つ目は、環境を汚染する原因となる可能性。二つ目は、適切にリサイクルすることで、資源として生まれ変わる可能性です。

リサイクルの技術は日々進んでいます。以前は不燃ごみとして捨てられていた使用済みの携帯電話も、レアメタルを取り出すための貴重な資源となっています。まるで宝探しをするようでもあるリサイクルの技術や方法について、学生のみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

複雑に絡み合う問題 物事の両面を見る目を養う

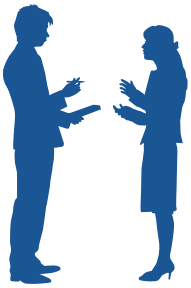
環境問題には様々な側面があります。例えば、廃棄物の処分場は社会に欠かせないものですが、一方で、住民にとって設置の理解が得られにくいものでもあります。また、排ガスを出さず、環境にやさしい車と言われる電気自動車ですが、製造にはレアメタルなどの貴重な資源が必要であると言われています。これらは、実に難しい問題です。廃棄物が環境汚染の原因にも重要な資源にもなりうるように、常に物事の両面を見ることが、大切だと考えています。

循環型社会を実現するため 答えのない問題に立ち向かう

難しい問題はたくさんありますが、私たちがよりよい社会を実現するためには、あらゆる局面で常に何らかの答えを出し続けることが求められます。答えのない問題に立ち向かい、考え続ける力こそが社会で必要とされており、学生のみなさんに身に付けていただきたい姿勢でもあります。そのために必要なことは、失敗を恐れないこと。失敗から学ぶことはたくさんあります。とにかく動き出してみること。それが肝心だと思います。

Hideyuki Mongi
門木 秀幸講師
環境学部
【専門】環境分析／廃棄物・リサイクル工学

File2 人と協働をすること、そして学ぶ楽しさを知ることで人生は豊かなものになります



Yoshimichi Shimada
島田 善道講師
経営学部
【専門】経営組織／国際経営

組織の中で協力し合う「協働」が私の研究のテーマ

組織経営や、グローバルリーダーに関する研究をしています。集まった多様なメンバーたちがいかに協力し合い、一つの目標を達成していくのか。「協働」することについての考えを、経営学を通して深めていきたいと思っています。

そうした興味を持つようになったのは、実際に私がパナソニックという企業の中で20年間働いた経験からです。協働の難しさが身に染みることも多くありましたが、同時にいろいろな人が動く現場というものは面白いなと感じました。組織や人に関する研究を経営学でできるということを知り、ならばその分野を徹底的に研究してやろうと、学問の道へ進むことを決意したんです。

自分の世界が広がっていく それが学ぶことの本当の面白さ

周囲の反対を押し切って会社を退職し、あらためて学生に戻ってみると、学ぶことはなんて楽しいのだろうと思い知らされました。学びは自分の小さな世界をどんどん広げてくれました。そして生きることを豊かに、楽しくしてくれるものなんだと気づくことができました。学生のみなさんにも、ぜひ今この時間を大切にしていただけたらと思います。ただ焦ることはありません。私もこの年になって、ようやく理解できたことなんです。

諦めず前へ進み続けるために、まずは自分をしっかり持つ

学生のみなさんには自ら考え、行動できる人間になってほしいと思っています。しっかりとした考えを持ち、それをしっかりと伝えて、人を動かし、協働するということは、仕事はもちろん、人生そのものだと言えます。もちろん落ち込むようなことも、どこかであるかもしれません。でも失敗を繰り返しても、諦めずに続けていくことで、少しずつでも前に進むことができると考えています。

Campus Topics

**経営学部の光山ゼミと兪ゼミが、この夏、それぞれ海外でフィールドワークを行いました。
企業訪問や現地の大学生との交流を通して、学生たちは様々なことを学んだようです。
それぞれのフィールドワークの様子を、学生の声を交えてお伝えします。**

▲ BMW社への視察

▲ マイスター組合での様子

▲ Captron社

Campus Topics File.01

光山ゼミ inドイツ

経営学部にて経営戦略研究を行っている光山ゼミ生12名は、2018年9月10日～9月19日の日程で、ドイツ・ミュンヘンを起点としたドイツ夏合宿を実施しました。

世界的に競争力を発揮しているメーカーを主対象に、「技術をベースとした戦略経営が実際の企業でどのように実践されているのか」、また、「国際通用性の高いグローバル人材に必要な資質とは如何なるものなのか」というテーマを掲げ、ドイツ社会および経済界で絶大な影響力を有する企業（BMW、Audi、ミッテルシュタント（中小企業）の雄とも言えるCaptron、など）や各種団体（手工業・工業組合・マイスター）へのインタビュー調査および訪問を行いました。本活動は、座学の中で学んできた経営戦略理論をベースとした技術戦略が実際の企業でどのように実践されているのかについて学ぶことを目的としています。

メンバー
飯塚 孝之、遠藤 莉央、小田 詩織、片桐 雅喜、木村 圭史朗、篠木 清香、田中 奈緒
土江 彩冬、橋本 一輝、藤原 直人、古田 和哉、松本 遥（全て経営学部 3年）

▲ Captron社の方との交流

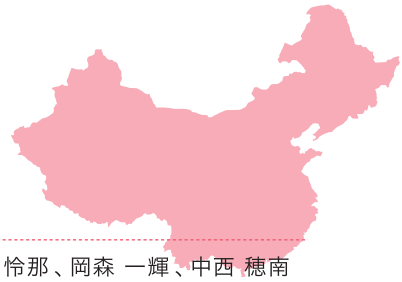
▲ Captron社の方と

学生の声

今回のドイツ視察で学んだことは、ドイツのものづくり産業の技術力とその技術力を生かした経営戦略がどのようになされているかということでした。本活動を通して、グローバル化が今後さらに進んでいくであろう世界の中で日本企業が、持続的競争優位を維持していくためには、世界の高い技術力に対抗する技術力が必要であることに加え、限られた資源を効率的に活用し、アピールしていく経営戦略が必要であるのではないかと考えました。卒論研究の方向性として、グローバル展開している企業としていない企業との経営戦略の比較から将来的にどのような違いがあるのかについて研究したいと思います。

Campus Topics File.02

兪ゼミ in 中国（福建省）



2018年9月16日～9月22日にかけて、兪ゼミ6名が、中国（福建省）フィールドワークを実施しました。今回のフィールドワークでは日系企業2社と大学2校を訪問しました。

〈 中西穂南さんがレポートしてくれました。〉

メンバー　井上 咲、氏平 怜那、岡森 一輝、中西 穂南
PHAM VAN HUNG（全て経営学部 3年）

企業訪問

東北理光（福州）印刷設備有限公司

主力製品であるコピー機の再生ラインを見学。市場から回収した97％以上の部品を再生機として再度市場に提供することで、より環境負荷の少ない製品を作る仕組みがあり、環境保全に配慮した再生機事業に対する企業の熱意や努力を感じることができました。

また、作業工程に付きまとう危険を回避するための社員安全教育制度の一部を実際に体験。社員食堂に隣接する安全教育コーナーでは、過去に起こってしまった作業中の事故と、それに対する改善方法などのパネルが展示されており、社員に情報を共有する環境を整えています。

▲ 東北理光 ― 真島社長の説明

麦克赛尔（maxell）数字映像（中国）有限公司

プロジェクター生産ラインと在庫を保管するための倉庫施設等を見学。たくさんのパーツを必要とするプロジェクター生産ラインでは、多くの社員の方々が働いていました。

一つひとつの工程が複雑・精密であることに、技術力の高さを実感。新入社員の教育制度として、一定期間以上の研修期間が設けられており、時間内にいくつネジを正確に付けられるか等をテストした上で、生産ラインに立てるそうです。男女の比率が製品の精度に関わるといった細かな点までを考慮した上で、精度が高く効率の良い生産ラインを実現していることに感銘しました。

▲ 麦克赛尔（maxell）数字映像（中国）有限公司

大学訪問

福建工程学院

管理学院の学生、先生方にお会いしました。講義中にスマートフォンを使わない取り組みがなされていて、日本の大学よりも授業に集中できている印象を受けました。兪ゼミ生は、鳥取の名所・名産品や日本の食文化について、パワーポイントを用いて発表。鳥取砂丘を知らないという現地の学生もいたので、鳥取の観光名所をもっと世界の人に知ってもらえたらという思いが芽生えました。

日本語と中国語で話をするのが大変な部分もありましたが、お互いが英語やSNSツールを用いながら楽しく会話が弾む場面が多くありました。

▲ 福建工程学院-学生間交流

福建師範大学外国語学院

日本語が堪能な学生の皆さんと日本語で話をしました。日本に留学する予定の学生、すでに留学していた学生など日本への留学に積極的で、とても上手に日本語を話している様子に驚きました。話題は中国で人気の日本人や映画、アニメなどの趣味や、寮生活と一人暮らしの生活についてなど様々。グループによっては、就職に対する考え方や国の制度の違いなど、就職を控えた学生同士のタイムリーな話題もあり、改めて日本に興味を持ってくれる学生がたくさんいることを知りました。

▲ 福建師範大学外国語学院校舎前

海外大学との学生交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。
海外の学生との交流や歴史・文化体験等を通じて、視野の広がりや成長などのきっかけとなっています。

清州大学（韓国）との学生交流

派遣／2018年8月7日～10日　受入／2018年8月14日～17日

［派遣の様子］初日にソウル市内で韓国の民族衣装体験、徳寿宮周辺の散策、二日目には清州大学の学内見学、テコンドー体験、陰城郡での韓国の伝統人形作り、三日目には、ソウル市内で水族館見学、ショッピングなどを行い、各地でサムゲタンなどの韓国料理を堪能しました。プログラムを通じ学生同士が交流を深め、お互いに刺激を与え合う充実したものとなりました。

▲ 派遣の様子（テコンドー体験）

▲ 受入の様子（茶道体験）

ウラジオストク国立経済サービス大学（ロシア）との学生交流

派遣／2018年9月2日～9日

▲ 伝統的な民族衣装体験

▲ 両校の学生の交流

各日の午前中にロシア語の授業を受け、午後には鷹の巣展望台等の名所や施設の視察や伝統料理のペリメニ作りなどを体験し、ウラジオストクの歴史や文化を学ぶとともに、授業で学んだ日常生活ですぐに使えるロシア語の言い回しなどを実際に試しました。また、現地で日本語を学んでいるロシアの学生との交流も行うなど、学生達は楽しみながら充実した毎日を過ごしました。

ユニテック工科大学（ニュージーランド）との学生交流

派遣／2018年8月17日～9月18日　受入／2018年11月27日～12月25日

［派遣の様子］世界各国からの留学生と一緒に英語の授業を月曜日から木曜日まで受け、放課後と週末はホストファミリーや留学生とオークランド市内の観光などを行いました。また、ユニテックの日本語クラスに参加し、日本の文化について英語でプレゼンテーションをするなどして、ユニテックの学生との交流を深めました。プログラムを通じてたくさんの出会いに恵まれ、多くのことを学びました。

▲ 派遣の様子（日本語クラスの学生と一緒に）

▲ 受入の様子（本学学生との会話練習）

卓球部

私たち卓球部は現在37名の部員で楽しく活動しています。主な活動は週3回の大学での練習と鳥取県内や県外の大会に出場しています。今年は計8回の大会に積極的に出場して来ました。

昨年は練習になかなか人数が集まらない状況が続いていましたが、今年は新たに一年生が12名も入部し昨年よりも賑やかになりました。部員の中には大学に入ってから卓球を始めた方や、中学・高校と続けている方など様々な人が練習をしているため、どなたでも気軽に練習できる環境になっています。

また鳥取大学との合同練習や、大会などで知り合った人や県内のクラブチームを大学に招き一緒に練習を行うなど、様々な人と試合をすることができる環境をつくっています。

実力はまだまだですが、大会で上位入賞するような成績を残せることを目標に頑張っていきます。応援よろしくお願いします。

代表：牧園 善樹（環境学部 2年）

科学部

私たち科学部は様々な場所で科学教室を開き、子供たちに科学の楽しさを知ってもらうことを目的として活動しています。科学といえば難しいイメージがありますが、難しい内容を行うわけではありません。子供たちが親しみやすく、科学に対して興味を持つような工作や簡単な実験を考え行っています。

科学部は毎週木曜日に集まり、工作や実験の準備をしています。また月一回定期的に外部で科学教室を開催しています。科学教室の依頼があれば外部に出張もします。子供たちが楽しそうに工作や実験をしている姿は私たちにとってとても嬉しいものであり、次のモチベーションアップにもなります。お陰様で毎回開かれる科学教室には沢山の親御さんたちの参加もあり、私たちも大変嬉しい限りです。

まだ設立して間もない部ですが、頑張って活動していきたいと思いますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

代表：近藤 攻（環境学部 2年）

学友会 活動報告

【第54回鳥取しゃんしゃん祭りに参加して】

2018年8月14日（火）、第54回鳥取しゃんしゃん祭に公立鳥取環境大学A連・B連として踊り子・スタッフあわせて121名の学生たちが一丸となって参加しました。昨年はあいにくの雨天により最後まで踊りきれずに終わってしまいましたが、今年は素晴らしい天候にめぐまれ、途中辞退者を出すことなく全員が最後まで踊りきることができました。また、沿道にはたくさんの学生や教員の方たちが集まって応援してくださいました。踊り子・スタッフ・観客の皆様と心を一つにし、またとない第54回の鳥取しゃんしゃん祭をつくりあげられたのではないかと思います。

長期にわたり、多くのクラブの協力のもと行った踊り練習では、総代・リーダーを中心に、細部にまでこだわり取り組みました。当委員会も全力でサポートに尽力し、去年の反省点など改善できる点は改善し、今まで以上に良い練習となるように努力しました。

第54回の鳥取しゃんしゃん祭を無事迎えられたのも、様々な面でご協力・ご支援いただいた皆様のおかげでございます。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

わたしたちTUESしゃんしゃん愛好会はこれからも、地域社会とのつながりを大切にし、精いっぱい鳥取しゃんしゃん祭を盛り上げていくことに尽力して参りますのでよろしくお願い致します。

TUESしゃんしゃん愛好会　代表：上野 美澪（環境学部2年）

【環謝祭レポート】

2018年10月20日（土）、21日（日）、本学で第18回公立鳥取環境大学大学祭「環謝祭」を開催いたしました。

今年度の環謝祭のテーマは『colorful ~虹を架けよう~』でした。「colorful」は、一人ひとりがそれぞれの楽しみ方で環謝祭を過ごしてほしいという思いが込められています。年に1度の大学祭で、学生はもちろんのこと地域の方々や企業の皆様と結束し、笑顔溢れるイベントにしたいという思いで決定致しました。今年も、鳥取市内の中学校、高等学校に加え、近隣の公民館や多くの企業にもご協力いただき「環謝祭ポスター」を配布し、掲示していただきました。その結果、地域住民の方々にも多数ご来場いただきました。当日は、30を超える企画や多種多様なイベントを実施し、盛り上げることができました。特に、「TUES SPECIAL LIVE IN 2018」ではステージ前を埋め尽くすほどの観客がおり、かなりの大盛況でした。また、鳥取県出身のアイドル「ミライノート」さんにもステージ出演していただき、予想を遥かに超える大盛況となりました。さらに、今年度復活した「お化け屋敷」もかなりの大盛況で、最長で30分以上待ちになることもありました。また、模擬店は57団体が出店し、地域企業団体の方々にも模擬店を盛り上げていただきました。そして、例年と同様、環境に配慮したリターナブル食器を使用しました。

第18回環謝祭を開催するにあたり、ご協力いただいたみなさまへ、この場をお借りして委員会を代表し、心より御礼申し上げます。

来年度も多くのお客様のご来場を委員一同、心よりお待ちしております。

第18回公立鳥取環境大学 大学祭実行委員会
委員長：大野 純平（経営学部2年）

プロジェクト名

鳥取でジビエる!
～シカ肉について本気出して考えてみた～

皆さんは「シカ肉」って食べたことがありますか？鳥取県内（または鳥取の近隣地域）の方にとっては、「シカ肉＝近所づきあいの一環として頂けるもの」、というイメージの方が多いかもしれません。一方、私は出身が広島県の呉市なので、シカ肉に縁がなく、環境大で働き始めてから初めてスーパーマーケットで購入しました。食べてみると、とても美味しい！！なのに、学生さんに尋ねても、「美味しいですよね」なんていういい返事は返ってこない。さらに、鳥取県では「とっとりのジビエ」と題してシカ肉を推していて、でも、シカの被害で山村はえらいことになっていて実は駆除が必要で…、などと、シカを取り巻く問題は、環境面、流通面、消費者サイドなど多岐にわたっているようです。

大切なのはただ一点。「鳥取のシカは超美味しい！」ということです。その美味しさを伝えることが出来れば、鳥取県自身の魅力をアップさせることもできるのではないか！？これがプロジェクト研究の目的です。

▲ メンチカツの揚げ時間を計測している様子

プロジェクト研究では、A：シカ肉問題を整理する、B：料理を考える、C：料理のプロモーションを考える、とグループ分けをしてスタートしました。さて何が大変かというと…いや、どれも大変なのですが、混迷を極めていたのはB班です。紆余曲折あってシカ肉でメンチカツを作ることになり、これまでに7回の試作、大学の事務の方などにお願いして試食も数回して頂きました。その都度出てくる感想（という名のダメ出し）に応えるため、材料を変え、分量を変え、揚げ時間を変え…その涙ぐましい努力は、教員側にまで十分伝わってきていました。そして、学生さんの料理スキルがめきめきと上達したことも伝わりました。

▲ 揚げたてのメンチカツを試食している様子

このプロジェクトは、今年だけで終わらせることはできません。来年、再来年と引き続き行っていき、「鳥取のシカ肉は、公立鳥取環境大学がブランド化したんだって」と言われる日が来るよう、頑張りたいと思います。

プロジェクトアドバイザー　経営学部 竹内 由佳 講師（記）

プロジェクトメンバー

プロ研2：〈環境学部〉園田 茉央、筒井 太一、福村 征竜、保坂 芽依、丸田 浩喜 三輪 拓也
〈経営学部〉秋田 実夢、岡野 里香、芳山 陽人

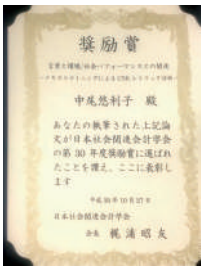
プロ研4：〈環境学部〉阿部 寛己、熊巳 一輝、小林 美樹、武村 隆利
〈経営学部〉植田 萌意、宇都 香奈子、川口 由華、黒木 初乃、佐藤 有輝 田邊 直大

経営学部 中尾 悠利子准教授が日本社会関連会計学会2018年度学会奨励賞を受賞

本学の経営学部経営学科中尾悠利子准教授が、日本社会関連会計学会2018年度学会奨励賞を受賞しました。平成30年10月27日（土）・10月28日（日）に関西学院大学の西宮上ケ原キャンパスで行われた、日本社会関連会計学会第31回全国大会にて、賞状の授与式が行われました。

社会関連会計学会とは、企業行動の環境面や社会面のプラスの影響およびマイナスの影響を、会計学の視座から探求する学会です。

この度受賞した、「言葉と環境/社会パフォーマンスとの関連 ―テキストマイニングによるCSRレトリック分析―」（『社会関連会計研究』第30号掲載論文）は、コンピュータベースのテキストマインニングを採用し、環境経営やCSRに取り組む企業パフォーマンスの良し悪しによって、サステナビリティ報告の定性情報の中でも最も重要なトップステートメントの言葉の使用に違いがあるのかを明らかにしました。



「中国地方学生フォーラム2018」に本学学生4名が参加しました

「中国地方学生フォーラム」（主催：中国・地域づくりハウス）が開催され、本学から4名の学生が参加しました。このフォーラ

ムは「道の駅と街道をつなぐ手法〜若者が訪ねたくなる、住みたくなる、中山間地域の魅力づくり〜」を全体テーマとして、12月1日(土)から2日(日)にかけて開催されたもので、本学のほか、中国地方6大学（鳥取大学、島根大学、島根県立大学、岡山大学、広島大学、広島工業大学）36名の学生が参加しました。

本学から参加した湯原朋大さん（環境学部2年）、野上量平さん（環境学部2年）、松原凪沙さん（環境学部1年）、間芝小春さん（環境学部1年）の4名と鳥取大学生1名は、鳥取・島根エリアの道の駅8カ所を訪問して地域資源（観光・ひと・食）に触れ、地域活性化の提案や新しいアイデアなどについて考えながらバス旅を楽しみました。

最後の訪問地「道の駅 頓原」を見学した後、参加学生達はレストハウスで夕食をとりながら交流会に参加し、親睦を深めました。

翌日は「道の駅と街道をつなぐ手法」と題したワークショップに参加し、訪問地で感じたことや活性化のアイデアを出し合い、発表に臨みましたが、鳥取県グループの提案内容は、具体的で分かりやすく好評でした。

間芝さんは「他大学の学生とも交流ができとても有意義なフォーラムでした。来年度も機会があれば参加したいと思います。」と、感想を述べてくれました。

第27回 経営学合同ゼミナール研究発表大会で優秀賞を受賞しました

経営学部の中尾悠利子＆連宜萍ゼミは、2018年9月に開催された第27回経営学合同ゼミナール研究発表大会（会場は静岡県伊東市観光会館別館）で優秀賞（審査の結果、最優秀賞は該当なし、優秀賞は3校）を受賞しました。

今年度の統一研究テーマは「創造性」です。中尾＆連ゼミは「ゲーミフィケーションを用いて創造性は構築できるのか」と題した研究報告を行いました。調査目的は、英語のチャットをさらに楽しくするために「ゲーミフィケーション」は有効であるかを検証することです。具体的に、フレーズカードゲームを利用し、英語村参加者にゲーミフィケーション要素を盛り込んだチャットを行ってもらいました。

2018年12月19日に、中尾＆連ゼミ4名は、調査に協力頂いた英語村のスタッフや学生に対し、夏合宿での研究報告を改訂し、英語でプレゼンテーションを行いました。

【中央大学共同フィールドワーク】中央大学期末成果報告会に参加しました

公立鳥取環境大学と中央大学とは、連携協力協定に基づく交流事業として、8月29日から31日まで鳥取県内で両大学の学生が参加する共同フィールドワークを実施しました。

12月15日に中央大学多摩キャンパスで開催された期末成果報告会（中央大学ＦＬＰ環境・社会・ガバナンスプログラム）において、発表の機会をいただき、両大学の参加者がフィールドワークでの学修成果のプレゼンテーションを行いました。

報告にあたっては、両大学の参加者を2班に分け、9月から4か月の間にメンバーが連絡を取り合いながら、班ごとに報告内容をブラッシュアップして報告会に臨みました。

報告会では、各班の発表後に質疑応答や指導教員からの補足説明などにより、新たな気づきを得るなどそれぞれが学修内容を深める機会となったほか、報告会終了後の茶話会では、お互いの大学の情報交換を行い、交流をより深めました。

全体テーマ

海洋生物資源の持続的な利用
ー鳥取県の水産関連施策の背景ー

各班テーマ

1班：水産業の課題解決に向けた私たちの提案（中央大学生2名、公立鳥取環境大学生3名）

2班：フィールドワークから見えた問題(消費者の魚離れ、魚価の低迷)(中央大学生2名、公立鳥取環境大学生：4名)

SDGsへの取組

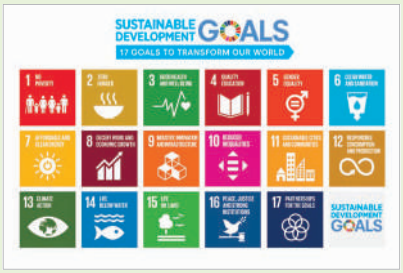
2018年10月10日 SDGs取組宣言を行いました。

公立鳥取環境大学は、2001 年の設立以来、「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うことを基本理念として教育、研究、大学運営を行ってきました。

一方、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）が2015 年9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択され、先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030 年を期限とする包括的な17 の目標、その下に詳細な169 のターゲットが設定されています。

17の目標は社会的、経済的、環境的課題を幅広くカバーし、目標年次も2030 年と長期にわたることから、その実現に向け、すべての関係者の参画を呼びかけています。特に大学は、教育、研究、大学運営の面からSDGs の達成に大きな役割を果たすことが期待されています。

SDGs の趣旨は本学の理念に一致するものです。そこで大学に期待されている役割を果たすという観点からSDGs の取組に参加することとしました。これまで培ってきた本学の教育、研究等の力を活用し、SDGs の達成に貢献するため、今後次の取組を行います。



（SDGsのロゴ 国際連合広報センターHPより）

- 持続可能な開発目標の原則を支持し促進する
- 持続可能な開発の課題への解決策を提供する研究を行う
- 持続可能な開発の諸課題を解決するための知識とスキルを有する人材育成を行う
- 環境的に持続可能で、多様な個性や背景を持つ人々を大学の一員とし、またすべてのステークホルダーと共に歩む大学運営を行う
- 持続可能な開発目標を支援するための活動について報告する

2018年10月10日

公立大学法人 公立鳥取環境大学
理事長 江﨑 信芳

決算報告

2017年度の決算の概要は次のとおりです。詳しい情報は大学のホームページでご確認ください。
〈 http://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report_since2012/ 〉

損益計算書

収　益

項 目	金 額(円)	割合(%)
運営費交付金収益	926,961,401	51%
入学金収益	80,558,000	5%
授業料収益	619,598,686	34%
検定料収益	28,788,000	2%
受託研究・事業等収益	10,608,992	1%
補助金等収益	36,724,417	2%
寄附金収益	2,851,720	0%
資産見返負債戻入	68,542,683	4%
財務収益	5,545,924	0%
雑益	23,771,989	1%
合計	1,803,951,812	100%

収　益

大学の収益は主に、設置者（鳥取県及び鳥取市）からの運営費交付金（51%）と学生からの授業料、入学金の納付金（39%）です。

費　用

項 目	金 額(円)	割合(%)
教育経費	315,497,735	17%
研究・教育研究支援経費	163,790,849	9%
受託研究・事業費	9,385,424	1%
人件費	1,048,038,274	58%
一般管理費	119,544,909	7%
財務費用等	142,821	0%
雑損	1,034,370	0%
当期総利益	146,517,430	8%
合計	1,803,951,812	100%

費　用

大学の費用は主に、教育経費（17%）、研究・教育研究支援経費（9%）、役員・教職員の人件費（58%）、一般管理費（7%）です。

貸借対照表

資　産

項 目	金 額(円)	割合(%)
土地	3,514,650,000	33%
建物、構築物、工具器具備品他	5,472,826,199	52%
図書	352,497,484	3%
有価証券等	200,165,380	2%
現預金	907,970,371	9%
未収入金等	82,134,689	1%
合計	10,530,244,123	100%

資　産

大学の保有する資産はその大部分が土地・建物等（85%）です。また有価証券・現預金等が11%を占め、図書は全体の3%です。

負債・純資産

項 目	金 額(円)	割合(%)
固定負債	589,699,947	6%
流動負債	324,504,111	3%
資本金・資本余剰金	8,718,081,426	82%
利益剰余金	897,958,639	9%
合計	10,530,244,123	100%

負債・純資産

資本金は設置者から出資を受けたものです（鳥取県50%、鳥取市50%）。また、流動負債の59%は寄附金債務で、固定負債は資産見返負債です。

※ 寄附金債務：次年度以降に支出できるもので、見合いの金融資産を保有しています。
資産見返負債：運営費交付金等を財源として、取得した固定資産の見合いの金額を減価償却費にあてるため計上するものです。
この2つは地方独立行政法人会計に特有の勘定科目です。

大学からのお知らせ

2018年度 学部・大学院学位授与式

2018年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を下記の通り執り行います。本学で大いに学び、多くの経験を得て、学生達が羽ばたいていきます。ご家族の皆様をはじめ多数のご来場を心よりお待ちしております。詳細は、ホームページにてご案内いたします。

【日時】2019年3月20日（水）
- 受付開始／9:30 ● 開　式／10:00
- 終了予定／12:30

【会場】とりぎん文化会館 梨花ホール
（鳥取市尚徳町101）

〈お問い合わせ先〉
公立鳥取環境大学総務課 TEL／(0857)38-6700

TUES
〈第32号〉2019年2月25日発行（年2回）発行
〈発　行〉公立大学法人 公立鳥取環境大学 事務局
〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1-1 TEL.0857-38-6700 FAX.0857-38-6709
［公立鳥取環境大学ホームページ］http://www.kankyo-u.ac.jp/ ［E-mail］info@kankyo-u.ac.jp
再生紙を使用しています